



Wind From 西原中学校

本校の全国学力・学習状況調査の結果について

今年4月に中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査が実施され、国語、数学の2教科及び質問紙の調査が行われました。本調査は中学入学後の2年間における学習内容の定着状況が反映され、その結果について本校の学習内容の正当率、生徒質問紙回答についてお知らせします。

○本校及び熊本県、全国の国語、数学の正答率は以下のとおりでした。

国語は、県平均、全国平均をやや下回り、数学は、県平均、全国平均ともに上回りました。また、正答率3割未満の生徒の割合は、国語（本校12.8%、全国12.6%）、数学（本校18.7%、全国20.3%）であり、全国比との関係からみると、正答率3割未満の比率は、同等か、やや少ない傾向にあります。正答率3割未満の生徒への学力保証が教育の充実に係る重要な課題であり、今後この解消に向けて受験対応とともに基礎・基本の徹底を図っていきます。

○国語について

※（ ）は全国の正答率

観点別では、「知識・技能」ではどの内容も全国平均を下回り、特に「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」が全国比より差があり、課題が見られました。「思考力、判断力、表現等」はやや下回る内容があるもののほぼ全国平均と同等でした。

		国 語	正答率
学習指導要領の内容	知識及び技能	「言葉の特徴や使い方」	51.9% (59.2%)
		「情報の扱い方」	50.7% (59.6%)
		「我が国の言語文化」	72.9% (75.6%)
	思考力、判断力、表現力等	「話すこと・聞くこと」	57.6% (58.8%)
		「書くこと」	65.7% (65.3%)
		「読むこと」	45.0% (47.9%)

【対策】資料を活用した表現、文章と図を結びつけた関係性の把握、目的に応じた要約の仕方等について、基礎的・基本的な力をつけながら、総合的にバランスのとれた力を付けていく必要があります。

○数学について

領域別では、全項目で全国平均を上回りましたが、「数と式」「データの活用」では、全国平均と同等です。

学習指導要領の内容	数 学	正答率
	「数と式」	51.3% (51.1%)
	「図形」	43.5% (40.3%)
	「関数」	61.6% (60.7%)
	「データの活用」	55.8% (55.5%)

【対策】全体的な傾向として二極化の傾向がやや見られるので、この傾向を克服するために、理解したことを定着させるために学び合いや学んだことを説明する活動（アウトプット型）を重視し、二極化を解消するための学びの場を設定していきます。

○全国平均より高かった項目

()は全国平均

生徒質問紙から	肯定的な回答の割合
先生は、あなたのよいところを認めてくれている	92.9%(90.4%)
学校に行くのは楽しい	86.9%(83.8%)
将来の夢や目標を持っている	73.2%(66.3%)
いじめはどんな理由があってもいけないと思う	98.6%(95.7%)
人の役に立つ人間になりたい	98.6%(95.2%)
1,2年の頃の授業は自分にあった教え方、教材、授業時間になっていた	87.3%(80.9%)
話し合い活動を通して自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたりした	90.2%(86.1%)
先生は、授業やテストで間違ったところや理解していないところを分かるまで教えてくれる	88.8%(84.9%)
授業や学校生活で友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力して課題の解決に取り組んでいる	97.1%(92.3%)
総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	87.3%(82.2%)
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	95.8%(91.7%)
数学の授業は好きである	60.6%(57.2%)
数学の授業の内容はよくわかる	80.3%(75.7%)
理科の勉強は好きである	74.6%(68.3%)
スピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表し合う活動が行われていた	91.5%(82.4%)

学力調査に加え、生徒の意識面や生活面についてのアンケートも実施されています。その結果についても、特徴的な項目（全国平均と差が見られたもの）を表に示しております。

・熊本の学びの研究実践により、特別活動での話し合い（子ども未来会議等）、総合的な学習の時間での探究的な学習への取組、議論し考える道徳の授業の成果が表れてきました。これからも引き続き、研究を推進し、活気ある学校、学級づくりを目指します。

・数学、理科においては、その教科の授業や学習が好きな生徒が多い傾向にあり、また英語で発表し合う活動が全国平均より高い傾向が見られました。授業改善の成果の一端が生徒からの回答から見られましたので、本校職員は更なる研鑽への励みになりました。

●全国平均より低かった項目

()は全国平均

生徒質問紙から	肯定的な回答の割合
自分にはいいところがある	81.7%(83.1%)
困りごとや不安があるとき先生や大人にいつでもそうだんできる	59.2%(67.5%)
友人関係に満足している	84.5%(90.1%)
タブレットを使って友達と考えを共有したり、比べたりしている	81.7%(86.2%)
国語の授業が好きである	37.7%(64.3%)
国語の授業の内容はよくわかる	66.2%(82.7%)
「1日あたりの勉強時間が2時間未満」と回答した割合	78.9%(68.3%) (該当する割合)

・「自分にいいところがある」や「友人関係に満足している」では、全国平均より低い傾向にあり、自尊感情を高めたり、友達との良好な人間関係を築いたりできるような取組をさらに進めていく必要

があります。授業や行事等で話し合い活動や協働的な学びの場を多く取り入れるなど、人（仲間）とかかわることのできる教育活動の設定など工夫していきます。

・悩みごとを相談しやすい環境をつくるために、学期1回の全生徒との教育相談の実施をはじめ、タブレットを使った相談フォーム「なんでも悩み相談室」（開設済み）を使い相談体制の充実をさらに進めていきます。

・授業づくりにおいては、生徒たちが教科の学習を好きになり、「分かる」を実感できるよう教員一人一人が研修を行い、さらに指導力向上、授業改善に努めていきます。

・家庭学習における主体的な取組について生徒会や学習委員会を中心に効率的な学習方法、学習時間等について検討していく予定です。